海洋プラスチックごみに関する日中共同調査の結果概要

１．背景

2019 年５月に開催された第１１回日中高級事務レベル海洋協議において、海洋ごみ共同調査を本年秋中国で実施し、この分野における交流・協力を更に推進することで一致した。これに基づき、専門家による共同調査を実施した。

２．調査の概要

〇実施日時　2019 年 10 月 21 日（引き続き 22～23 日にセミナー等を開催）
〇実施場所　黄海（大連西側沿岸域）
〇調査項目　漂流マイクロプラスチック（３地点）、
　　海底マイクロプラスチック（２地点）
〇参加者　　日本側　東京海洋大学　内田圭一　准教授　ほか 計２名
　　中国側　国家海洋環境観測センター　王莹　准研究員　ほか 計４名

※22～23 日には国家海洋環境観測センター、東中国師範大学でセミナー等を開催

３．結果の概要

〇漂流マイクロプラスチックの採取方法は、日本と大きな違いはなかった。中国では、サンプリングネットについて波が高い状況においても安定する工夫がなされていた。一方、中国では研究機関によって異なるサンプリングネットが用いられているとのことであった。
〇漂流マイクロプラスチックの個数密度算出方法について、意見交換を行ったところ、その方法が日中で異なる可能性が示唆された。
〇漂流ごみの調査方法について意見交換を行ったところ、日本では目視による調査を行っているのに対し、中国ではそれに加えネットサンプリングの結果を用いており、調査方法が異なることがわかった。
〇東中国師範大学では分析機器を取り揃え、世界各国の研究者が利用しているとのことであった。また、東南アジアから多くの研修を受け入れているとのことであった。
〇専門家同士の意見交換によって、今後、調査手法を調和化することが重要であること、そのために引き続き情報交換を行っていることが重要であることが共有された。

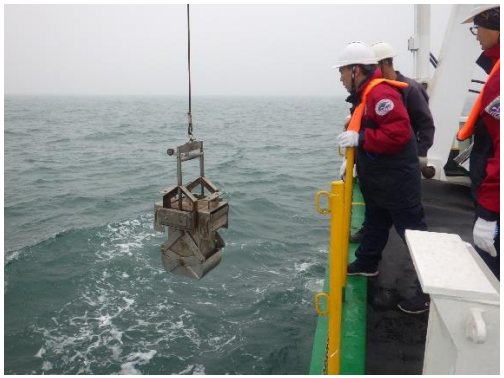
調査の様子

使用した調査船

漂流マイクロプラスチックの採取

漂流マイクロプラスチック採取ネット

採取した海水



海底マイクロプラスチックの採取

採取した底泥